

「命に至る道」

2016年02月18日

使徒言行録 2章 22節～28節。「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりに。このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまっただけです。しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。ダビデは、イエスについてこう言っています。

『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたてる。体も希望のうちに生きるであろう。あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておられない。あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてください。』』

ペトロは集まった群衆に対し「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です」と語りかけている。ここから、最初のクレド（信仰告白）、神の偉大な業（福音）が宣教された。神は主イエスがあなたの方の間で行われた奇跡と不思議な業と徴とによって、神から遣わされた方であることを証明された。ガリラヤで主イエスが示された慰めと励ましに満ちた言葉、また、力ある業によって神の恵みのリアリティを現し、人々に生きる勇気を与えられたことは既に知っている通りである。神は、この主イエスを定められた計画通り、あらかじめご存知の上で、エルサレム神殿当局に引き渡し、律法を知らないローマの総督ピラトの手を借りて十字架につけて殺してしまっただけです。しかし神は、主イエスを死の苦しみから解放して、復活させられた。主イエスが死に支配されたままでおられるなど、あり得なかった。それは、ダビデが主イエスの復活を預言している通りである。ペトロは、ダビデの歌とされる詩編 16 編 8 節から 11 節までの言葉を引用し、主イエスの復活を力説している。

主を目の前で見て、主が共にいてくださるので、私は動揺することなく、心は楽しみ、舌は喜び、神を讃える。体も希望のうちに生きている。そして、ダビデは詩編 16 編 10 節で「あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず／命の道を教えてください」と歌っているが、ペトロは「あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておられない。あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてください」と言っている。ダビデを陰府に捨て置かず、朽ち果てるままにしておかなかったのではなく、神が遣わした聖なる主イエスを復活させたと言い換えている。ペトロは、主イエスの復活を見て、命に至る道を示され、喜びで満たされていると語っている。

ペトロたちは、主イエスの十字架による死の絶望から、復活した主イエスと出会った時、喜びに変えられた。聖霊を受けた今、主イエスの福音の真実を知らされ、旧約聖書で預言された命に至る道が復活によって啓示されていると大きな喜びの中で語っている。